

大学と地域が共に発展

熊本大COC + (プラス) 事業



連携成果の見せ方工夫 村田氏

研究者の流動性高める 原田氏

15年に策定した「熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略」のポイント。

村田 産学官連携は成果の見せ方を工夫する必要がある。KUMADAIマゲネシウム合金で医療機器ができたといった具体的な成果を出せばいい。

原田 この事業には数値目標がある。学生の地元就職率を上げるとか、ベンチャーを生み出した実績とか。インタ

足立 学生が企業に行くのとは逆のインターンシップも必要だと思う。社員が大学の

村田 研究開発分野の誘致では、大学の教員や学生と連携できる拠点の誘致に力を注いでいる。研究機関は将来の投資の種になる。

足立 学生が企業に行くのとは逆のインターンシップも必要だと思う。社員が大学の

原田 大学の教員が民間で職を見つけているのではなく、民間の人が大学の教員になる比率を上げてはどうか。一つの手段として混合給与制といわれる仕組みがある。大学と企業の両方で研究し、両方から給料を出す方法。研究の柔軟性と研究者の流動性を高められる。



村田 信一氏



原田 信志氏

村田 金融機関の目利きはずかしい。研究開発から販路まで考慮して融資や投資ができるか判断している。製造に秀でていても経営面にも優れていないとは限らない。

原田 大学の教員が民間で職を見つけているのではなく、民間の人が大学の教員になる比率を上げてはどうか。一つの手段として混合給与制といわれる仕組みがある。大学と企業の両方で研究し、両方から給料を出す方法。研究の柔軟性と研究者の流動性を高められる。

足立 大学と企業の橋渡し役には行政だけでなく企業をよく知る金融機関も当てはまる。大学の研究を見て取引先とコーディネートできる。

村田 考え方やアイデンティティがきちんとあり、専門分野の知識が備わっている。鬼に金棒だ。

原田 大学の魅力若者にもっと訴えていく必要がある。校時代までに養う能力だ。

留学生に日本語教育を 足立氏

COCC十事業に具体的にどうかわりますか。

原田 熊本大は、大学の先端研究ノハウの導入や企業誘致を支援し、経営技術相談室を創設する。県立大は、農工商連携や6次産業化の推進のほか食関連産業の育成を受

工業連合会は県にさまざまな提言をしています。足立 お願しているのは、人口減少の流れの中で生産人口の減少をいかにして食

い止めるか。ダイバーシティ(多様性)の考えから女性や高齢者の活躍に期待するが、留学生など外国人の活用も大きい。

外国人雇用について商工会体でアンケートを実施した。すると熊本で外国人に働いてもらうとするとときに課題となるのは、言葉の壁だった。企業側が、さまざまな国からの留学生の母国語を習得するのは難しい。日本企業で働く外国人に日本語を習得してほしいという結果だった。そのことを県への施策提言に入れ

も別のプログラムで走っているリーディング大学院は別。医学と薬学が一緒になった生命科学の大学院で、英語による講義や研究が行われているが、日本で経済界や官公庁、アカデミックな進路を選ぶ人がいる。そういう人は日本語を学ぶことが必要になる。自然系でもリーディング大学院のシステムができると研究者だけでなく社会が求める人材やリーダーを養成することに

原田 医学系で熊本に残る人は少ない。しかし医学系で学生は実際にいますか。

原田 2-3年後にはそういうコースをつくることになるだろう。



五高の校長だった嘉納治五郎が勝海舟に揮毫(きごう)を依頼した扁額(へんがく)「入神致用」を前に固い握手



足立 國功氏

産学官座談会